



人権と平和は  
21 世紀のキーワード

〒720-0061 福山市丸之内 1-1-1

TEL 924-6789 FAX 924-6850

[jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp](mailto:jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp)

## 「いじめ問題を考える」講演会

**100名を超える参加者がありました。ありがとうございました。**

いじめで、死に追いつめられた娘の「優しい心が一番大切だよ」というメッセージを、一人でも多くの人に伝えたいとの思いから、小森美登里さんはNPO 法人ジェントルハートプロジェクトを夫・新一郎さんと立ち上げ、講演活動を精力的に続けられています。

その講演会を、2月22日(土)人権平和資料館で開催しました。当初、定員60名を予定していましたが、民生委員・人権擁護委員などのご協力により、103名の参加がありました。充実した研修が出来ましたことを、深く感謝しております。

講演後のわずかの時間に、せまい椅子のひざの上で、多くの方々に感想を書いていただきました。かけがえのない子どもの“いのち”を守るために、さまざまなご意見が寄せられました。その一部を紹介させていただきます。

- 家庭も地域も、子どもに関わる時間、機会が減ってきています。学校でも、先生が子どもに、授業以外に関わる時間が、少なくなっていると聞いています。地域で子どもたちが、集団遊びをしている場面を見ることも、少なくなっています。だから、子どもの心や思いを、想像する機会も時間もありません。私の孫も、もう少し大きくなったら、しっかり思いを聞く(聴く)祖父になろうと思っています。そして隣近所の子どもたちには、声のかけられる大人になります。いじめの問題で、いま自分にできることは、それくらいのことしか思いつきませんでした。(男. 61歳)

- 終わりの見えない、いじめの苦しみを我慢するのは、とてつもなくつらいことと思います。

亡くなられた子どもの遺書に書かれた言葉を聞いていると、自分は誰も助けられなかったとあり、責任感が強く心が優しい子どもほど、自分のことを責めてしまうのだと思いました。

自分の都合のいいように、面倒くさいことにならないように、隠ぺいしたりする大人に対し、子どもたちの中には、誰かを助けるために勇気をふり絞ったり、

大人に心配をかけないように、いじめられていても、つらい気持ちを自分の心の中に閉じ込めて、過ごす子ども達がいることを忘れてはいけなかったと思います。(女. 22歳)



## 感想、ありがとうございます。

- ・私は中学校の教員です。まさに、いじめが起こりうる現場で働いています。今までは、いじめの子は、どんな理由があるにしろ許さない。たとえ家や学校で嫌なことがあっても、それはいじめをする理由にならない！ と思っていました。しかし今日の話聞いて、目からウロコでした。加害者の話をしっかり聞き、寄り添うことが大切だと実感しました。明日から、今日のお話を生かしたいです。今日は、本当にありがとうございました。小森さんに出会えたこと、幸せです。(女. 40歳)
- ・学校の教員をしております。私が勤務している学校にも、いじめがあります。いじめられている子には、何の問題もありません。あるとすれば、その子の発達上の課題だけです。いじめ問題を集団単位で指導でき、解決の道筋をつけるのは、学校の教師にしかできません。いじめを受けている子や保護者の気持ちに寄り添い、他人の心の痛みを想像できる感性を育んでいきたいと思います。(男. 42歳)
- ・日常生活の中で、思いやり・声かけ・何気ないしぐさ、見守り活動は、子どもたちと大人との心のパイプ役になるのですが、これが日常の忙しさにかまけて、子どもの目の高さになっていないように思います。子どもからもらうパワー、子どもを通して親を成長させてくれます。本当に、子どもは宝です。子どもの「こころ」は、親以上に美しく大人みたいです。私たち大人が、しっかり子ども達を見守り、聞く耳を持たないといけません。親として、これからすること、出来る事を教えていただきました。私たち一人ひとりが、動かないといけません。(女. 55歳)
- ・中学校の担任をしています。ほぼ毎日、クラスでは様々な「問題」が起こります。特に「いじめ」については、解決したかにも見えても、続いていたり、本当に子どもたち自身が苦しんでいるのを感じています。(もちろん、取り組みを続けていますが)今日の講演で「いじめという問題にかかわっている人は、すべて被害者」という言葉が強く印象に残りました。これからずっと、その子どもたちに対して「背景を想像する声かけ」を続けていこうと思います。ありがとうございました。(男. 50歳)
- ・教育関係に関わっているので、子どもの背景を知ることになり、ハッとしました。これは過去、福山では大切にされてきたことだけれど、多忙化の中で忘れかけていた気がします。明日から、また一人ひとりの声に耳を傾け背景を探る努力をするとともに、子どもたちに寄り添っていきたいと思います。いじめの解決に向けて貴重な体験だけでなく、糸口までアドバイスいただきありがとうございました。(女. 53歳)
- ・いじめの心理は子どもの心の中に大きく支配しており、自殺者も多数いることを聞き、びっくりしました。その加害者は、加害者だけの問題でなく、親の問題が背景にあるということもわかりました。「いじめとは何か」、これはむずかしい問題であると思いますが、いじめを他人事とするのではなく、親同志がつながりを深く持ち、原点に戻って考えなければいけない、と強く思いました。(男. 80歳)